

特活) 歯科医学教育国際支援機構ニュースレター 2021年5月号

コロナ禍でのラオスの現状報告

ラオス事務所の持田所長から、コロナ禍でのラオスの現状報告がありました。それを転載いたします。本年4月22日に新たにコロナが発生以来、ビエンチャンでは2回目のロックダウンに入りました。初回は昨年4月に1ヶ月ほど、その後、徐々に緩和されましたが、今回は2週間程度です。昨年から今年の4月12日の週まで、コロナ感染者の累計が51名だったのが、4月20日に9名、21日に28名の新規感染者が見付き、急速ロックダウンに入りました。ラオス COVID19 対策特別委員会は20日までは様子見の状態でしたが、翌日の28名でロックダウンを決定しました。ラオス政府の決定の早さに驚かされました。2日間で40名弱の新規感染者を出した原因は、ボートで川を渡り密入国したタイ人と、彼らと接触したラオス人の若者が感染したのがきっかけでした。密入国タイ人から感染したラオス人が、ミニコンサートを開催したり、繁華街で多くの若者が大騒ぎをしたり、密な状態が感染を拡大した原因と言われています。SNSを介した市民の反応ですが、特に首都ビエンチャンでは、上述の原因を作った若者に対する罵詈雑言で埋め尽くされ、どの店に行ったのか、誰と接触したのか、などの情報を検索し、投稿・共有しています。ラオスではまだ個人情報保護という概念が希薄なため、原因を作った人、その知り合いなどが芋づる式に暴かれ、犯人探し、誹謗中傷合戦の様相を呈しています。ラオス政府は急速、コロナのチェックポイントを複数箇所に設置(写真左)しましたが、長蛇の列になっています。首都ビエンチャン知事がラオス新年の連休に入る前にコロナ感染拡大を恐れ、首都閉鎖を国に要請していたのですが、連休前の市民や企業などからは大ブーイングでした。しかし皮肉なことに現在は一躍スターです。ロックダウンの判断の難しさを実感しました。ラオスでは、主にイギリス製、ドイツ製、ロシア製、中国製のワクチンが寄付されました。ラオス政府は、最初は医療従事者に優先的に接種を指示しましたが、現在では国籍を問わず、無料の接種を推奨しています。首都ビエンチャンでは、主要病院にワクチンの摂取ブースが設置され、こちらも長蛇の列とのこと。また、コロナ感染者を収容するベッド数が足りなく、当初は友好病院に20床(室)用意されていましたが、4月21日の新規感染急増を受け、受け入れ病床を増やしました。ただ、部屋数が足りなく、(写真右のように)複数のコロナ感染者が同室で過ごさなければならない状況です。



金属回収事業にご協力ください。

詳細は 08065851245 ・ oisdekay@gmail.com 担当・金子まで

齒科医学教育国際支援機構 東京都中野区沼袋 1-44-2 TEL/FAX 03-3386-6605